

放射線管理講習会に参加して

帝京大学医学部附属溝口病院 小川衣美

平成 27 年 10 月 25 日に聖マリアンナ医科大学病院で行われた放射線管理講習会に参加しました。

講義内容は画像診断における放射線管理、小規模施設における放射線管理、業務上の事故や要望に対する管理室の対応、一時的な管理区域に対する医療スタッフの被ばく管理、MR と医療情報システムの運用、線量の最適化と第三者認定による放射線管理の安全性と多岐にわたる内容でした。

最初の講義では、始めに「医師から読影して欲しいと言われた事があるか」の質問に会場からちらほら挙手がありました。読影まではなくても実際当直時等に担当医から「どうかな？」と助言を求められる場面は多々あり、正常画像を把握し、異常に気付く必要性は実感します。人手の少ない夜間の緊急画像検査や小規模施設等は専門性の高い医師、特に放射線科専門医師が不在なケースが散見され、読影ミスを減少するために診療放射線技師の積極的活用が対策であり、「将来的には読影の補助という役割を明確に担うべき。」と学ぶことができました。それには早急な読影補助の教育システム構築と実施、そして各自の自己研鑽が必須であると、とても痛感しました。すべては患者さんのために、自己研鑽していかなければと思いました。

小規模施設における放射線管理の現状と問題点では、医療施設を病院と診療所で比較し法令をわかりやすくご講演いただきました。当院も先月医療監視がありましたが毎年 1 回の確に管理を行うことは適正に医療を行ううえで重要だと再認識しました。

また、業務上の事故や要望に対する管理室対応では、管理室業務と情報室業務があり様々な報告事例の対応についてご講演いただきました。安全管理や事故対応から中学生に対する職業訓練の実施などもあり幅広い業務がうかがえました。改善の対策は実施されなくては意味がなく、誰もが理解し実施できる方法を検討しなければならない、そして、常日頃から他部署とのつながりを意識することはトラブルの回避やよりよい対応が可能であるというコメントに共感しました。

今回の講習会は身近な内容で興味深く、得た知識を実業務に生かしていきたいと思います。

